

【総合的な学習の時間】 第29回授業 指導案

芝浦工業大学柏中学高等学校 探究科

1. 単元名 アクションプラン共有会と次年度への展望

2. 本時の概要

本時は、前時において生徒各自が策定し、1週間実践してきた「アクションプラン」の成果を共有する発表会と、次年度(中学3年時)に向けた探究活動のオリエンテーション、そしてこれまで進めてきた「なかよし学園プロジェクト」の成果物最終確認を行う100分(50分×2コマ)の授業である。自ら駆動させた学びの成果を他者に表現するとともに、これまでの協働プロジェクトを完全に完結させ、次なる探究への見通しを持たせることをねらいとしている。

前半は、各自がこの1週間で実際に取り組んだアクション(疑問の調査、料理、筋トレ、読書など)と、それによって生じた「見方・考え方の変化」「次につなげる一步」について、15分間で発表の構成を考える。その後、3～4名のグループに分かれ、各自のChromebookの画面を見せながら1人2分間での発表・共有ワークを行う。なお、前回欠席した生徒については、総合学習室にて前回の学習サイクル・スタイルに関する補習授業(25分間)を並行して実施し、学びの足並みを揃える。共有会終了後は、次年度の探究活動についてのオリエンテーションを行い、自らの興味関心に基づく「個人探究」または「グループ探究」の選択、および1年間の集大成となる2月の「生徒探究発表会(ポスター発表)」への見通しを伝える。

後半は、全員でWebコンテストの教室へ移動し、「なかよし学園プロジェクト」の成果物の最終確認を実施する。国際配送や現地での授業に耐えうるかどうかの最終チェックを行い、確認が完了したチームから順次自習とすることで、長期にわたるプロジェクトの完全な締めくくりとする。これらの活動を通して、自らの学びの変革を他者に伝える表現力を高めるとともに、次年度の主体的な探究活動へ向かう意欲と、責任を持ってプロジェクトを完結させる自律的活動力を養うために本時を設定した。

3. 本時の目標

- 実践成果の論理的な言語化と相互共有(表現力・メタ認知能力に関わる目標):

自身のアクションプランの実践内容と、それによる見方・考え方の変化(気づき・教訓)を論理的に整理し、Chromebookを用いて他者に2分間で分かりやすく発表・共有できる。

- 次年度の探究活動に向けた主体的選択と見通し(研究基礎力・主体性に関わる目標):

次年度の1年間にわたる探究活動の概要を理解し、自身の興味関心に基づいて「個人探究」か「グループ探究」かを主体的に選択する見通しを持つことができる。

- 協働プロジェクト成果物の責任ある最終管理(自律的活動力に関わる目標):

「なかよし学園プロジェクト」の成果物の最終確認にチームで責任を持って取り組み、プロジェクトを完全に完結させることができる。

4. 本時の準備・使用教材・参考文献

- 教員用提示資料:
 - 授業スライド 第29回
- 使用教材(副教材):
 - 岡本尚也(2019)『課題研究メソッド Start Book』新興出版社啓林館
- 参考・引用文献:
 - 青木久美子(2005)「学習スタイルに関する理論と概念—欧米の研究から学ぶ」『メディア教育研究』2(1),197-212
 - 梶田叡一(2023)『言葉の力を育てる』金子書房
 - 三宮真智子(2018)『メタ認知で〈学ぶ力〉を高める』北大路書房
 - 鈴木 克明監修・市川 尚・根本 淳子編著(2016)『インストラクショナルデザインの道具箱101』北大路書房
 - 鈴木克明・美馬のゆり編著(2018)『学習設計マニュアル—「おとな」になるためのインストラクショナルデザイン』北大路書房
 - 溝上慎一(2025)『主体性総論—主体性とは何か、なぜこれほど求められるのか』東信堂
 - 山中司・坂場大道・増田智香(2025)『探究学習のための「問い」の立て方』朝日出版社

5. 本時の展開(100分:50分×2コマ / 中間休憩10分)

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
【1時限目】		
1分	① 本時の流れの説明 スライドに基づき、本時の全体の流れ(1)アクションプラン共有会、(2)次年度の活動について、および成果物確認)を確認する。	アクションプランの発表だけでなく、次年度への展望やこれまでのプロジェクトの最終確認を行う盛りだくさんの回である旨を伝える。
15分	② アクションプランの発表準備 ・各自がスクールタクトで仕上げてきたアクションプラン(アクション内容、事後の気づき、次の一歩)を読み返す。 ・2分間の制限時間内で伝えるための「発表の構成」を個々に考える。	・ただシートを読み上げるのではなく、「行動の前後で自分の見方・考え方がどう変わったか」が他者に伝わるよう構成を工夫させる。
10分	③ アクションプラン共有会(グループ発	・タイムキーパーを決めさせ、1人2分の時間を厳守する

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
	表) ・各クラス内で3～4名のグループを編成する。 ・各自のChromebookの画面をグループメンバーに見せながら、1人2分間で実践成果を発表する。	よう声をかける。 ・他者の多様なアクションや気づきを聴くことで、自らの学び方をさらに広げる刺激を受け取れるように促す。
5分	④ 次年度の活動についてのオリエンテーション ・スライドを見ながら、中学3年時の探究活動の概要について説明を聴く。 ・自分の興味関心に合わせて「個人探究」か「グループ探究」かを選択すること、および2月の「生徒探究発表会」で1年間の集大成としてポスター発表を行う見通しを確認する。	・「自己の在り方や生き方」を見据え、自分の関心があるテーマは何かを少しずつ考え始めるよう動機づけを行う。 ・説明終了後、速やかに荷物を持って「Webコンテストの教室」へ移動するよう指示する。
20分	⑤ なかよし学園PJ成果物確認(前半) ・チームごとに「なかよし学園プロジェクト」の成果物(制作物・手引き・手紙)の最終確認を行う。	・教員は各チームの成果物が配送可能な状態か、不備がないかを巡回して確認する。
10分	休み時間	・教員は進捗を共有、2限目の最終確認の続きに備える。
【2時限目】		
50分	⑥ なかよし学園PJ成果物確認(後半) ・前限から継続して、Webコンテストの教室にて全チームの成果物最終確認を行う。	・全チームの成果物が責任を持って提出・保管されたかを確実にチェックする。